

けんきゅうしゃ
がんばりつづけた研究者

たかやなぎけんじろう
高柳健次郎
はつめいした
テレビを發明した



ひとにはそれぞれさいのうがある。それを
いよなか
生かして世の中のためになるような
にんげんとして生きること。
たかやなぎけんじろう
高柳健次郎の好きなことばでした。

編集 ● 浜松市東区役所
〒435-8686 浜松市東区流通元町20番3号
電話 053-424-0113
協力 ● 財団法人 浜松電子工学奨励会
〒432-8011 浜松市中区城北三丁目5番1号
電話 053-472-7561
● 静岡大学 高柳記念未来技術創造館
〒432-8561 浜松市中区城北三丁目5番1号
電話 053-478-1402
● 神谷昌志 (写真提供)
● 東図書館、積志図書館
発行 ● 平成21年3月

高柳健次郎は明治三十二年

浜名郡和田村(今の浜松市東区

安新町)に生まれました。

小学生のころは、やせて小さく

病弱で、勉強も運動も

苦手な少年でした。

凧や竹とんぼをつくって、

一人で遊ぶことが多く、

クラスの友だちからは

「ぐずで、のろまな健次郎!」と

からかわれていました。



健次郎が和田尋常小学校

四年生するとき、学校に水兵さんが来て

無線通信を見せてくれました。

「無線通信って何?」

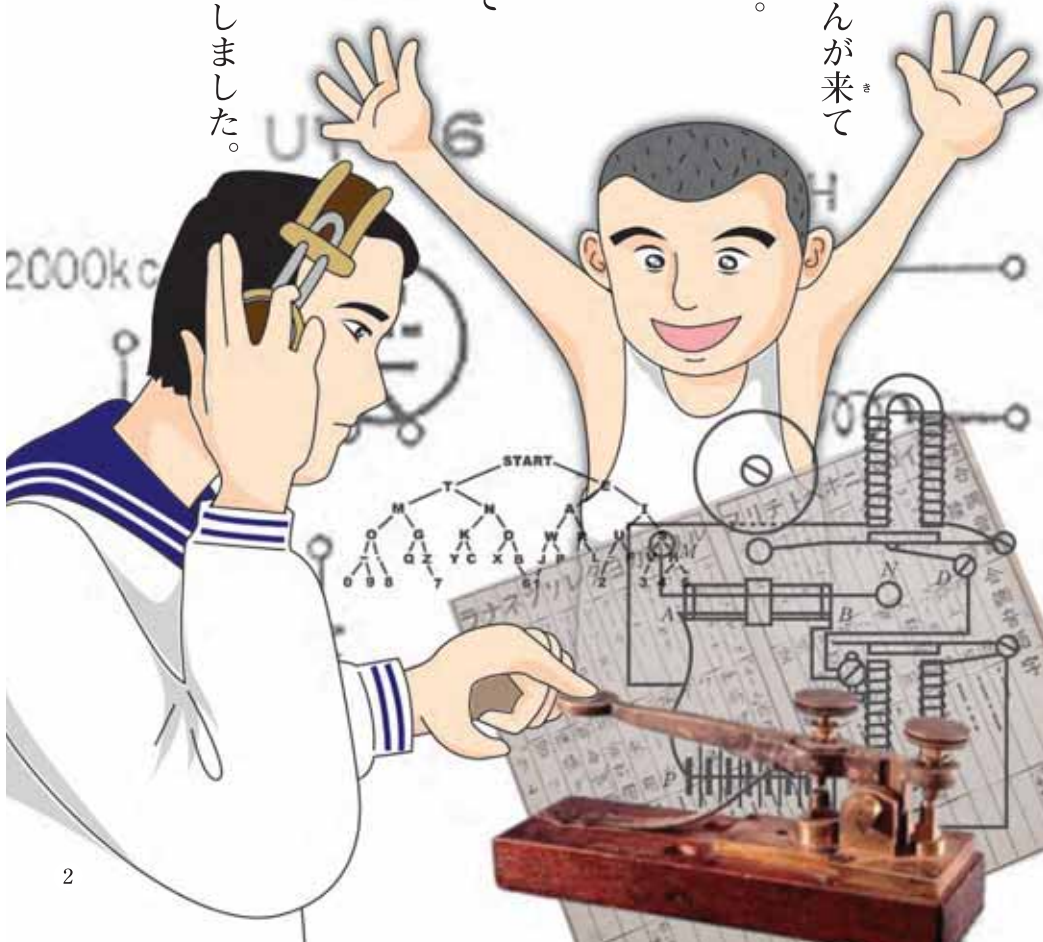
「モールス信号って?」

「えっ、なんで線がつながって

ないのに遠くの人に

言葉を伝えられるの?」

魔法のような電波にびっくりしました。



和田尋常高等小学校へ進学した

健次郎は算数と理科が苦手でした。

担任の渡瀬晴吉先生は健次郎に

宿題を出しました。

「この問題を家でやってきなさい」

「何日かかってもいいから、

自分で考えるんだぞ」

さっそく家で問題にとりかかり、

三日かかってようやく解くことが

できました。

渡瀬先生に見せると

「やればできるじゃないか！」

次から次へと、先生の出す算数の

問題に健次郎はチャレンジしました。

「こつこつ努力すれば、何でも

できるようになるし、苦手な算数

も楽しいな」

もともと実験は好きだったので、

理科の勉強も楽しくなり、成績も

ぐんぐん向上していきました。



「渡瀬先生のような人になりたいな」

健次郎は静岡師範学校(今の静岡大学

教育学部)へ進学し、理科の先生を

目指して実験に熱中しました。

真空放電の実験で真空管の中で

走る赤や青や緑の蛍光を見て

「真空放電って、何てきれいなんだろう」

「この美しい光(電子)を何かに

うまく利用できないかな!？」



真空放電の光に強い関心を持った健次郎は

東京高等工業学校(今の東京工業大学)の

電気科へ進学し、電気工学の勉強に

取り組みました。

卒業するころ、中村幸之助博士は

健次郎たちに話しました。

「電気を通して人々の役立つ仕事を

してほしい。いま流行っていることを

やってもだめだ。十年後、二十年後の

人々が幸せになる未来の技術を研究するんだ」



神奈川県立工業学校の先生となった健次郎は

「人々の役立つものって、何だろう？」

「どんな発明が喜ばれるのかな？」

今まで書きためた研究ノートを

見ながら考えました。

あるとき健次郎はアメリカで

ラジオ放送が始まったことを

雑誌で知りました。

「電波で音を送れるなら

形(映像)でだって送れるはずだ！」



健次郎が電波で形を送る方法を

「無線遠視法」と名づけたころ、

本屋でフランスの雑誌を見て

「あっ！」とおどろきました。

その雑誌にのっていた空想漫画の

テレビジョンは、健次郎が考えて

いた無線遠視法と同じだったのです。

「テレビジョンだ！」

テレビジョンをつくるんだ」

ついに健次郎の目標が決まりました。

